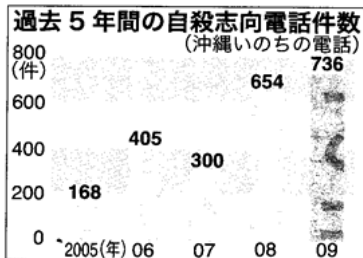


「自殺志向」相談 過去最高736件



自殺予防のため、悩み苦しむ人々から話を聞く「沖縄いのちの電話」に寄せられる相談のうち、自殺志向と判断された相談件数は2009年の1年間で736件に上り、1976年の開設以来、過去最高に達したことが分かった。不況の長期化で厳しい経済状況に追い込まれた人の相談が増えている。一方、相談を受ける相談員が不足しており「いのちの電話」事務局は相談員の応募を呼び掛けている。自殺志向の相談は2005年までは百数十件ペースで推移していたが、06年から急増。08年は654件、09年は736件と激増した。渡久山朝裕運営委員は「長引く不況による雇用情勢の悪化に加え、(08年秋の)リーマン・

いのちの電話09年 男性失業者が増加

ショックも反映し、男性失業者の相談が増えている」と話す。

自殺志向の相談件数を年代別に見ると、40代が最も多く213件、次いで30代が176件、20代124件、50代102件と続き、働き盛りに多い。相談内容は「リストラに遭い、仕事が見つからず落ち込んでいる」「うつ病で病院に通っている」などが多い。

相談内容が深刻化する半面、相談員の確保が厳しくなっている。1日13時間の相談時間に常時2人の相談員を配置するには約200人が必要だが、現在は約90人。自殺志向者の相談時間は長時間になり、別電話に出られない状態が生じている。

自殺を「実行中」という相談もあり、名前や住所を聞き出して自殺を防いだ事例もある。浜端宏次事務局長は「沖縄いのちの電話を開設して34年になるが1日も休んでいない。何とかつなげたい」と相談員への応募を呼び掛けた。相談員になるには養成講座の受講が必要。問い合わせは沖縄いのちの電話事務局 ☎098(888)4747。(新垣毅)